



令和7年度三朝町立三朝中学校

よりよい三朝中をめざして

〒682-0152 鳥取県東伯郡三朝町本泉430

TEL(0858)43-1397 FAX(0858)43-1396

misasa-j@g.torikyo.ed.jp

https://misasa-j.edumap.jp/



R8年 2月20日 生徒総会

教育目標

高い志と豊かな感性を持ち、今をたくましく生きる生徒の育成
～学校教育は未来への投資～
～「みのりある学び」と「さわやかな仲間」は「さい(最)適な環境」から～

めざす生徒像=生徒の生活信条

仲間をだいじにする生徒
よく気がつく生徒
よく働く生徒
よく燃えあがる生徒
よく耐えぬく生徒

研究組織	みのりある学び	さわやかな仲間	最適な環境
	学習指導 図書館教育 情報教育 キャリア教育 国際理解教育 特別支援教育	生徒指導 人権教育 特別な教科道徳 福祉教育 特別活動	健康教育 保健指導 食育・給食 教育相談 部活動 安全教育 環境美化
	地域連携	PTA活動	働き方改革の推進

学校評価とは…

教職員の「自己評価」、保護者・地域住民などの「学校関係者評価」を学校改善に役立てます。

学校は、教育活動及び学校運営について、中長期及び単年度の目標とそれらを達成するための具体策を設定し、その達成状況を評価することで、教育活動の改善と学校教育の質の向上を図ります。そして、学校評価の結果を保護者や地域住民等に説明、公表することにより、学校・家庭・地域が一体となった「いい学校」「元気な学校」づくりを推進します。

本校では、学校目標を達成するための具体策として、「みのりある学びづくり」「さわやかな仲間づくり」「最適な環境づくり」を計画し、3つの視点で教職員の自己評価、学校運営協議会員による学校関係者評価を行いました。保護者・生徒へのアンケートはもちろん、学力、学習習慣、食生活にかかわる調査の結果や、授業をはじめとする生徒の生活全般の様子を多方面から見て評価し、改善のポイントを発見していきます。

評価基準

それぞれの項目について、本校職員による「自己」評価と、学校「関係者」評価を数値で表しています。数字は下のような段階となります。

4	十分優れている。
3	おおむね良い。
2	いくらか課題がある。
1	課題が多く早急な改善を要す。

みささの未来を語る会



みのりある学び



修学旅行

職場体験
トライ・ワーク



国際交流 訪台

人権全校集会



校内文化祭

秋季大運動会



生徒会選挙



PTA奉仕作業



避難訓練

部活動(合唱部)



命と体を
大切にする学習



設定項目		到達目標	達成状況・考察
み みのりある学び	1 主体的に学び、健やかに人間性豊かな生徒	以下、R7年度学校評価アンケート結果を指標とする。 ●「授業に意欲的に取り組んでいる」で肯定【1学期94.5%→2学期】上昇 ●「日々の授業で学習意欲が高まっていると感じる」で肯定【1学期79.8%→2学期】10%上昇 ●「学習内容や目的に応じて、自分にあった学習方法を見つけている」で肯定【1学期73.4%→2学期】10%上昇 「何事にも粘り強く最後まで続けている」で肯定【1学期81.7%→2学期】10%上昇 ●「宿題以外の家庭学習に取り組んでいる」で肯定【1学期55.0%→2学期】10%上昇 ●「汚れているところを自分で見つけて掃除している」で肯定【1学期80.7%→2学期】10%上昇	・ほとんどの項目については昨年度と比べ上昇しているため、1学期の取り組みは昨年度に比べて改善されていると言える。 ・「宿題以外の家庭学習に取り組んでいる」については10%近く減少している。 1学期の授業研究会で、「主体的に学ぶ」とは「ゴールに向かって自分で調整しながら、失敗を恐れず自分で考え、自ら動き学ぶこと」と定義づけた。 →共通実践として「①明確なゴール設定（評価基準を示す・達成が確認できる場面を設定する）②自己決定できる場面や試行錯誤できる十分な時間の設定③視点を示したふり返し」に学校全体で取り組む。 →実践を共有して蓄積していく場を設ける。（職員会の終わり10分で共有してシートに入力するような場をつくる） ・「学習意欲が高まっている」が79.8%から88.9%へ上昇。 ・「宿題以外の家庭学習」が55.0%から63.6%へ上昇。 ①の明確なゴール設定において、本時の目標の書き方（表し方）を共通理解する場面を作る。
	自己評価	3	
	2 学習の基礎的・基本的内容を身につけている生徒	以下、R7年度標準学力調査の「基礎」の数値を指標とする。 〈1年〉 ●国語【1学期73.1%→2学期】で上昇 ●社会【1学期73.4%→2学期】で上昇 ●数学【1学期77.8%→2学期】で上昇 ●理科【1学期70.5%→2学期】で上昇 ●英語【1学期なし→2学期】で上昇 〈2年〉 ●国語【1学期63.4%→2学期】で上昇 ●社会【1学期59.2%→2学期】で上昇 ●数学【1学期60.8%→2学期】で上昇 ●理科【1学期57.0%→2学期】で上昇 ●英語【1学期61.3%→2学期】で上昇 〈3年〉 ●国語【1学期63.3%】 ●社会【1学期65.6%】 ●数学【1学期49.9%】 ●理科【1学期45.0%】 ●英語【1学期47.1%】 ※3年生は2学期の実施がないため、全員に対する進路保障を指標とする。	①ペア学習やグループ学習により、基礎的・基本的な内容について質問したり、教えたりといった学び合いの場面を多く設定することで、アウトプットの機会を増やす。 ②反復練習や家庭学習に取り組んでよかったと実感できるような取り組みをする。 ③選べる課題を設定する。自分で選ぶことで意欲も向上し、自分に合った学力向上に向けた取り組みができる。 →「〇〇について説明する」やポスターセッション、スピーチやプレゼンなど、アウトプットをする取り組みが各教科で行われている。 ・「新たな気付きを得る」91.9%と「他人の考えを生かす」89.9%と高く、単に「話し合って楽しかった」で終わらず、他者の意見を自分の思考に取り入れる「質の高い対話」ができてつづある。 ・「人の良いところをみとめる」98.0%と「誰に対しても同じ態度で接する」85.9%と心理的安全性が保たれていて、対話についての環境が良い。
総合評価	自己評価	3	
	3 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する生徒	以下、R7年度学校評価アンケート結果を指標とする。 ●「話し合いて、新たな気づきや考えを得ることができている。」で肯定【1学期90.8%→2学期】10%上昇 ●「話し合いて、他の人の考えを自分の考えに活かしている」で肯定【1学期89.9%→2学期】10%上昇 ●「学校行事や学級活動をおとして、自分が活躍できたと感じられる」で肯定【1学期75.2%→2学期】10%上昇	◎成果物（ポスター、動画、劇、新聞、クイズ、小テストなど）を作成する授業に挑戦する。 ◎授業の発問において、オープクエスチョン（Yes,Noで答えられない問い）を増やし、根拠に基づいて理由を説明させる活動を行う。 ・質問5の「新たな気付き」91.9%と質問6「他人の考えの活用」89.9%が高いため、対話を積極的にしようとする姿勢ができています。この中で、さらに対話の質の向上が求められる。 ・対話の質の向上のためにそのような場面を教師側が積極的に仕掛けていく。
関係者評価	自己評価	2	

来年度の取り組み
・まずは教員自身が主体的・対話的で深い学びをできるよう、意図的に対話の場を設けたり、「主体的に学ぶとは何か?」「誰ひとり取り残さないようにするにはどうすればいいか?」といった、本質的なテーマでの議論の場を仕掛けたりする。 ・目指す生徒の姿や授業の姿をより明確にすることにより、課題の質や量を工夫したり、分かりやすいゴールやめあてを提示するなどの共通実践につなげていく。

学校関係者評価のコメントから
・中学生と語る会が開催され、気持ちの良い挨拶ができ、話し合いをする際もとても活発に意見交換ができ充実した話し合いができていたのだが、その話し合った内容を発表するときに、伝え方や話すことのまとめ方に課題があるように感じた。相手を意識したり、自分で臨機応変に話すことを工夫するなどの力が欲しい。そのためのトレーニングも必要である。

設定項目		到達目標	取組結果・考察
さ さわやかな仲間	1 自分の想いや考えを相手に伝えることができる生徒	●教育相談アンケート「学校が楽しい」「困ったことや不安なことは相談する」の肯定的回答が2回目以降は、1回目の回答を上回る。「楽しくない」の回答を減らす。（5月・11月実施予定） ●EdvPath「対人関係スキル」の数値が1回目よりも上回る生徒の割合が7割を上回る。	edvpath対人関係スキル 1～3年の平均3.3である。 この数値は、様々な人々と関わるグループにおいて、他者と適切に関係を作り、保つ力を表す。1年生は前回の結果から、+になっていたことから、人とのかわり方において不安を感じていたが、少し良くなったと感じている生徒が増えたと考えられる。一方で、3年生は、数値がやや下がっていることから、人とのかわり方に不安を感じる生徒がやや増えたと考えられる。自己理解や他者理解に比べて、対人関係スキルの数値が低いことから、人との関係作りや関わり方に不安を感じている生徒がやや多い。 教育相談アンケート「学校が楽しい」「困ったことや不安なことは相談する」の肯定的回答が8割。1回目よりも「学校が楽しい」「困ったことや不安なことは相談する」と感じている人が増加。 ◎生活アンケートを定期的には実施していないので、2学期は定期的に実施したい。 ◎支援センターなどは外部機関との連携は少しずつできていますが、個人の差はある。 ◎生徒会活動（MMR）を中心に生徒間の関わりをもつことができた。帰りの会は、班日誌などの取り組みは、2年生はマンネリ化しているため、別の活動を行う計画である。1年生は計画通り班日誌を続ける。3年生は、班日誌の取り組みはしていない。
	自己評価	3	
	2 自分たちの生活をより良くすることができる生徒	○生徒が生徒会活動へ取り組むことにやや消極的である。 ●EdvPath「自己理解」「責任ある意思決定」の数値が1回目よりも上回る生徒の割合が7割を上回る。	edvpath 1～3年平均 自己理解 4、1 責任ある意思決定 3、5 自己理解の数値は、学校生活の中で感じた自分自身の気持ちや考えを理解し、自身の態度や行動がクラスや部活動などの友人にどう影響しているかについての理解度を表す。 責任ある意思決定の数値は、自身がよりよく生きるために、自分自身で行動することを決められる力を表す。 自己理解の数値がMAX5に対して、全校平均が4.1ということから、生徒一人ひとりが自分の行動や態度が他者に対してどう影響するかが分かる感じている生徒が多いと考えられる。（2回目と比較して+になっている。） 責任ある意思決定の数値から、1・3年生は、自分で決めて実行できる力があると感じている生徒が多いが、2年生は1・3年生はより少なく、自分で決めて実行できない、他者に委ねてしまう生徒が一定数いるのではないかと考えられる。（2回目と比較して、全校平均は+になっている。） ◎委員会活動などで、各学年で振り返りを行っている。
総合評価	自己評価	3	
	3 自分や仲間の人権をだいにじることができる生徒	●EdvPath「社会/他者理解」の数値が1回目よりも上回る生徒の割合が7割を上回る。	edvpath 1～3年 社会/他者理解 4.0 この数値は、様々な生い立ちや環境、文化を持つ他者に対して共感する力を表す。 MAX5に対して、全校平均が4.0ということから、共感しようとする、人の思いを理解しようとしている生徒が多いと考えられる。 ◎委員会活動などで、クラスを表彰するようなことが行われた。 ◎道徳、3年人権作文、3年人権劇を取組む。
関係者評価	自己評価	3	

来年度の取り組み
学年によって班のふりかえりをやっていなかったり、いつも同じ内容をかいていたりしてしているため、帰りの会の内容の検討が必要。EdvPassを使って個人だけでなく、集団としての状況や全国との比較を行う。 数値と実際の様子のギャップをどう評価するか?→「学校が楽しい」と感じている生徒が多い一方で、不満なや不安を感じている生徒がいるため、そのような人たちが周りから賞賛される機会をつくる必要がある。

学校関係者評価のコメントから
●各種アンケートの校内結果が良くなっていることは評価できる。 ●校内での比較だけではなく、全国との比較を通して、生徒の実態を見とり、学習活動に生かしてほしい。 ●話し合いは活発に行うことができるが、話し合いの結果を端的に伝える力が弱いと感じた。

設定項目		到達目標	取組結果・考察
さ 最適な環境	1 より良い生活環境を整え、環境に配慮した行動ができる生徒	●自分たちの学校環境をよくするためにはどう行動したらよいか考え実践できる生徒にする。 ●15:25の掃除開始時間を守り、10分間黙掃に取り組み、自ら掃除すべき場所を見つけられる生徒にする。※教職員は、生徒とともに清掃活動に取り組む。 ●望ましい教室環境に気づき、身の回りを整えることができる生徒にする。（ロッカー、掲示物、机・いす、換気など）	保健環境委員会から、ロッカーの整理整頓、床掃除について具体的な方法を提示し、全校生徒が足並みを揃えて取り組み、隅々まできれいにしている姿がすばらしかった。大掃除のあとにきれいになった場所が汚れてしまったことを残念がったり、自主的にそうじをする生徒がおり、このような生徒を増やしていきたい。
	自己評価	3	
	2 望ましい栄養や食事のとり方を理解し、健康な生活を自ら管理できる生徒	●食に関するアンケート「朝食を毎日食べる生徒」を90％以上にする。 ●「バランスのよい朝食がとれている生徒」の割合を45％以上にする。 ●食育を家庭生活の中で生かせる生徒にする。 ※PTA育成部活動との連携 ●地元農家や保・こ・小、役場各課など地域のつながりや地産地消の大切さを理解する生徒にする。	給食放送を通して、栄養や食材への関心、地産地消について発信していくことができた。今学期は給食委員会の生徒が、食に関する問題に関心を向け、調べたことを発信するという活動を始めた。食に関するアンケート結果から抽出した生徒に、朝食に関する個別指導を実施することができた。
総合評価	自己評価	4	
	3 生活リズムを基本とし、心身ともに健康な生活をおくることができる生徒	●「寝る30分前にはメディアから離れる」「23時までに寝る」が守れる生徒にする。※メディアルールアンケートで75％以上を目指す。年間8回実施（6月～2月）	メディアルールデーの結果は、80％以上が守れているという結果が出ている。保健環境委員会の生徒の啓発活動、特に実施後の結果をすぐに報告できていることが功を奏しているのではないかとと思われる。メディアルールデーの結果から抽出して個別指導を行うと、生徒だけの努力では、行動変容が難しいことがあり、いっしょに考えて自己決定を促していきたい。
関係者評価	自己評価	3	

来年度の取り組み
●生徒自らが最適な環境を整える主体者であるという意識を育みたい。→1 ●家庭と連携し、基本的生活習慣の確立に努めたい。→2,3 ●生徒が三朝中学校メディアルールを意識し行動することで、健康や時間をマネジメントできる力を身に付けさせたい。→3
学校関係者評価のコメントから
●清掃活動において、保健環境委員会が汚れている場所を可視化し、適切な方法を提示できた点を評価する。 ●食に関する指導や保健指導を個別に実施し、生徒との対話を重視し、ともに考えている点を評価する。SNS等とのかわり方については、生徒に考えさせる機会を増やしてほしい。

評価基準	
4	十分優れている。
3	おおむね良い。
2	いくらか課題がある。
1	課題が多く早急な改善を要す。